



おもしろいっけの〜



令和2年度 つるおか森の保育活動記録

はじめに

保育園、認定こども園、児童館、子育て支援関係者等で構成されている「つるおか森の保育研究会」は、次世代を担う子どもたちの豊かな感性や健康な心身を養うために、森林や自然環境を活用した具体的な方策についての情報収集や活動支援、研究を行う事を目的として活動を進めております。

令和2年度はコロナ禍が続き、収束の兆しが見えないという状況の中で出来る内容や方法を考え、保育実践や研修を進めてまいりました。会員研修につきましては、各施設が行っている実践事例の報告と、山梨県在住の小西貴士氏（インタープリター、大妻女子大学講師）から、リモートにてご指導いただきました。森の保育実践の根底にある大切な事の気づきやSDGsの観点からのアドバイス等をいただきました。

令和3年2月に開催を予定しておりました「第11回つるおか森の保育フォーラム」につきましては、新型コロナウイルスの感染を鑑みて、令和3年7月に延期して開催されました。第1部の講演会はリモート出演となりましたが、井上寿氏（建築家、こども環境アドバイザー）に「環境としての“自然”～子どもの育ちと大人の役割～」という内容にてご講演頂きました。

講演の中では、文部科学省でも直接体験・体験活動は重要であると位置づけられており、小学校・中学校・高校においては、自然体験をした後に勉強の意欲が高まるという効果が出ているということ、感性を最大限に伸ばす力を持っていることも重要な要素と捉えているともお話を聞いていました。また、井上氏は感性を「人が様々な体験から考えたことを自ら持つ知識で理解して評価する能力」と考えており、乳幼児期は感性が最も育つ時期であることから、この乳幼児期に感性が育つようにしていく事が重要であり、大人がその機会を与えるということも大事であるとお話されていました。井上氏のお話をお聞きして、乳幼児期において自然体験活動がとても重要であるということを再確認することができました。

ここで学んだことを今後の研究会の活動に活かしてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本研究会の活動を支え、ご指導・ご協力を頂きました多くの皆様に心からお礼申し上げます。

令和3年10月
つるおか森の保育研究会
会長 本間 日出子

1 森の保育実践事業	
• 自主保育	1
東部保育園、松原保育園、新形保育園、上郷保育園、黄金保育園 大東保育園、いずみ保育園、福栄保育園、小堅保育園、田川保育園 三瀬保育園、特定非営利活動法人明日のたね	
• 体験活動	29
中央児童館、子ども家庭支援センター	
• 研修助成	33
東部保育園、小堅保育園、三瀬保育園	
2 森の保育発信事業	36
• つるおか森の保育フォーラム	
• 活動ポスター展	
3 森の保育研修事業	37
情報交換会	
資料	
つるおか森の保育研究会の概要	38



“森”の文字を3本の木で描き、それぞれの木の色は、新緑から紅葉へと移っていく森の様子を表しています。

この木が何の木なのか…、みなさんでイメージを

膨らませてみてください。

森の活動では、五感をふんだんに使って、いろいろなイメージを膨らませることができます。

1. 森の保育実践事業

自主保育

山や海が近くにある保育園はもとより、市街地の保育園も身近にある公園や田んぼ、畑などを活用して自然体験活動を行っています。

1 東部保育園 ①3歳児 ②3・4・5歳児

活用した自然資源

よもぎ

①【令和2年5月 身近な植物に触れる（よもぎホットケーキ作り）（赤川・保育園）】

<活動内容>

- ・実際に自分で摘んだよもぎを使ってホットケーキ作りをする。

<ねらい>

- ・身近な草花に触れ、見る、触る、嗅ぐ、味わうなど五感を使った自然体験をする。

- ・ある日、保育者が摘んできたよもぎを子どもたちに見せて、匂いをかいだりしました。よもぎは食べられることを伝えると「食べたい!」との声が上がりました。
- ・よもぎでホットケーキを作ることになり、みんなで赤川土手によもぎ摘みに行くことにしました。



- ・赤川土手に着くと、沢山ある草花の中から「これ、よもぎかな?」と手に取り、葉っぱの形を見たり、においをかいで「よもぎだ!」とよもぎを見つける姿が見られました。

- ・後日、よもぎを使ってホットケーキを作って食べました。
- ・よもぎの色やにおいだけでなく、味も感じ「よもぎのホットケーキおいしいね」と喜んで食べていました。
- ・実際によもぎを自分で見つけて、手に取り、においをかぎ、味わうといった経験を通して、子どもたちは道端に生えている草花により興味を持つようになりました。



- 春ならではのよもぎに触れ、色や形、手触り、においを知る経験をしたことで、その後散歩に行くたびに、道端に生えているよもぎを見つけて「よもぎあった！」と気づくようになりました。身近な植物に興味や関心を広げるきっかけになったと思います。

②【令和2年6月 身近な植物を使った遊びを楽しむ（ハーブティー作り）（園庭）】

＜活動内容＞

- 園庭の花壇のレモンバームを使ってハーブティーを作って飲んでみる。

＜ねらい＞

- 園庭のハーブを使ってハーブティーを作って味わうことで、五感を使って自然物に触れる。

活用した自然資源

桑の実、クローバー、ミント、
しその葉、レモンバーム

- 園庭に桑の木から実が落ち始めると、拾い集めてすり鉢ですりつぶしてジュースを作る遊びがはやり始めました。「ぶどうジュースみたい！においしいにおいする！」と言いながらペットボトルにできたジュースを集めて楽しんでいました。



- 次第に、園庭にはえているクローバーやよもぎを同じようにすり鉢ですりつぶして出てくる汁を、お茶に見立てて遊ぶことへと発展していきました。
- すりつぶす時に植物からする匂いに気付き、シソの葉をすりつぶすと「ふりかけのにおいする！」と言ったり、ミントの葉をすりつぶすと「キシリトールのにおいがする！」などと“匂い”に気付く姿が多く見られました。

- 保育者が園庭の花壇のレモンバームを摘んで、ハーブティーが作れることを伝えると「飲んでみたい！」と子どもたち！
- 実際に作って飲んでみると「レモンのにおいする！」「レモンの味がする！」と植物を使って作ったハーブティーを味わっていました。



- 春から行ってきた活動の経験から、植物の“匂い”に気付く姿が増え、普段の何気ない遊びの中でも植物の匂いを感じている様子が多く見られるようになりました。
- 遊びの中で、植物の“匂い”を感じて様々なものを連想したり（ミント⇒キシリトール、しそ⇒ふりかけなど）、“色”を見て様々なものに見立てたり（桑の実の紫色⇒ぶどう、雑草の緑色⇒お茶）、子どもたちは身近な自然を使った遊びの中でも“五感”を使って楽しんでいることを改めて感じました。
- これからも身の周りにある自然を活かして、子どもたちがどんな楽しみ方をしているか、どんな育ちをしているかを丁寧に拾いながら、子どもたちの興味、関心、探求心などが更に広がっていくような関わりをしていきたいと思えます。

2 松原保育園 ①4・5歳児 ②2・3歳児

活用した自然資源

ハルジオン、ヘビイチゴ、アカツメクサほか

①【令和2年5月18日（月） 森の保育Week ～春～（赤川）】

<活動内容>

- 草花を使ってデカルコマニーや色水遊びをする。
- 春の草花に興味を持ち、自然素材を使った遊びを楽しむ。
- 草花の色や形の美しさ、面白さ、不思議さを味わう。

※デカルコマニー
絵の具などを塗った紙を半分に折り、転写させて楽しむ絵画技法。

<ねらい>

- 「春の草花を使ってあそぼう！」をテーマに春の草花を見つけ、それを使った自然遊びを楽しむ。

- ハルジオンの花をすり鉢ですりながら、「ピンクになると思ったのに黄色になったよ。花の真ん中が黄色だからね」ということを自分で考えていた。
- 自分で摘んできた花や草を半分に折った画用紙に挟んで積み木で上からトントン叩いていると、「力を強くすると色がつく！」「今度は違うものでやってみよう！」と試していた。
- アカツメクサをすりながら、ミツが入っていることを知っている子どもたちは「甘い匂いがするかも！」と期待したり、「色はあんまりでないね」と花の色と同じ色の色水にならないことに気付いていた。





- デカルコマニーは赤川の河川敷に紐を張って出来上がった作品を飾ったことで、他の子どもたちの目にも触れ、視覚でも楽しむことが出来た。
- 様々な草花に興味を持ち、デカルコマニーを楽しんでいた。

• 草花で作った色水を小さなペットボトルに入れた自分の好きな色のマイボトル作りになり、見せあいながら色の変化を楽しむ事が出来た。この色水を使った遊びへと発展させていきたい。(染め物あそび)

②【令和2年10月7日(水) 森の保育Week ～秋～(東公園)】

<活動内容>

- ネイチャーゲームを行う。各自肩から下げた袋にネイチャーゲームのシートを貼り、見つけたらシールを貼る。

<ねらい>

- 秋の自然に触れながらネイチャーゲームを楽しむ。
- 五感を使って秋の自然を楽しむ。

活用した自然資源

石、木の実、松ぼっくりなど



- 2歳児は木の実を探し、赤い実を見つけると「とれるかな」「よいしょ」と一生懸命手を伸ばしていた。
- 取った実は袋にしまい、「保育園でケーキを作るんだ」と言っていた。



- ・3歳児はつるつるした石を探しているうちに「ガサガサの石もある」「でこぼこの形もあるよ」と石探しが広がり、「おうち」「くるま」「ちょうちょ」などをイメージして並べたり積んだりして楽しんでいた。



- ・ネイチャーゲームのシートを作ったことで、2・3歳児にもわかりやすく楽しんで自然物を探ることができた。
- ・3歳児は好みの石を一人ひとりが拾ってきて、石への興味が普段の遊びにも繋がっていた。“ただの石ころ”を“遊び道具”や“宝物”に変えるなど、子どものイメージする力や発想する力の大きさを感じた。

3 新形保育園 ①0～5歳児 ②2～5歳児

活用した自然資源

じゃがいも、さつまいも、ハーブ、夏野菜、切れ端野菜

①【令和2年4月～令和3年1月 自然物（野菜）に触れる（園庭・園庭にある畑・山大の畑）】

<活動内容>

- ・野菜の栽培～世話～収穫～クッキング～食べる～製作

<ねらい>

- ・自然物に興味を持って触れる。

- ・野菜の苗を植えると、毎日世話をしながら成長や変化に気付き、収穫を楽しみにするようになった。
- ・自分達で苗植えや世話をすることで、愛着が湧き一生懸命水やりや草取りなどを続けていた。
- ・ハーブなどは香りにも気づき「おいしそうだね」「どんなお料理になるの？」と興味を広げていた。





- ジャガイモやさつまいもは、収穫したのち、サラダや焼きもにして食べた。自分たちで育てた野菜のおいしさ感動したり、一生懸命育てたことで大切に思う気持ちを子どもたちが感じていた。

- 切れ端野菜を使って野菜スタンプをすると、「お花みたいだね」とイメージをふくらませ、遊びにつながっていった。
- その後、切れ端野菜の栽培にもつながり、花が咲いたり根っこが生えたりしたことにも気づき、「大きくなって」「これからどうなるの？また野菜になる？」といろいろな思いがあふれていた。



- 身近な野菜に触れたことで、興味を広げて子ども自ら活動していた。心を込めて世話をすることで、視点も変わっていき、細かな所に目を向ける様子が見られた。
- 野菜を愛情を持って大切に育て食べることで、栽培する事の面白さや種を植えるとまた植物が育つことに気付けた活動となり、植物にも命があるんだねと子どもなりに感じる事ができた。とてもよい経験となった。

②【令和2年4月～12月 自然物に触れる（保育園・園庭・鶴岡公園）】

<活動内容>

- 散策～自然物拾い～遊び～製作

<ねらい>

- 自然物に興味を持って触れる、遊びに取り入れる、イメージしながら作る。

活用した自然資源

どんぐり、松ぼっくり、落ち葉、木の実、植物のつる

- 鶴岡公園や園庭で自然物を集めると、「どこから落ちたの？」「これは何だろう？」と木の上も見るようになった。
- どんぐりにも色々な形があることに気づき、木の種類があることを知った子どもたちは、「種類は違うけど、仲間だね」と話していた。
- どんぐりの皮がむけていることに気づき、そのままむき続けた子が「どんぐりの皮をむいたらアーモンドが出てきた」と驚く姿が見られた。





- 遊びの中で集めた木の実を使い、ケーキやごちそうを作ってパーティーごっこを楽しんでいた。
- 誕生日にはケーキを買ってもらった経験から、イメージをふくらませながらお友だちの誕生日パーティーごっこに遊びが広がっていった。

- 集めた自然物を工夫しながら飾り、季節の環境作りを保育者と一緒に楽しんだ。製作あそびでもさつまいものつるを使ったリースや松ぼっくりツリーなど、楽しく自然物を使った活動に触れた。



- 遊びの中で自然物に目を向け、不思議さや面白さ、きれいさに気付く子が多くいた。
- どんぐりはアーモンドなのかという子どもの疑問を一緒に考える事ができ、自然の面白さを共感できたことが良かった。
- 様々な材料を自由に使って製作あそびができる環境があることで、集めた自然物を使いイメージしたものが作れることが何より子どもたちの達成感にもつながった。
- 製作も経験することで、どうやったら上手につけられるのか、物によってはボンドが良いのかテープ、のりと自分で考える事にもつながった。

4 上郷保育園 ①3歳児 ②5歳児

活用した自然資源

トマトの苗、テントウムシ

①【令和2年4月～10月 畑に何植える?～テントウムシ～ (畑・園庭・農村公園)】

<活動内容>

- 畑にトマトを植えよう～テントウムシくん待ってるよ!～

<ねらい>

- 園舎周りの草花や虫などに関心を持つ。



- 絵本『ポットくんとテントウムシ』を見て「テントウムシくんってトマトが好きなのか。トマト植えたいな〜」という声が出て、トマトを植えることにする。トマトの生長とテントウムシが来ることを楽しみに世話をしていたある日、トマトの葉にテントウムシを見つけて「うわ〜、本当に来た。本当にトマト好きだった」と覗き込んでいる。



- 絵本や図鑑でいろいろな色のテントウムシがいることを知り、戸外に出る時にもミニ図鑑片手に散策し、見つけると「今まで見たのと違うやつだ」とみんなに教えたりする。

- 桜の葉にテントウムシを見つけた時は黄色いブツブツがあり、「卵かな？」と数日観察していると、ついにトゲトゲかいじゅうにも会うことができ「何色のテントウムシになるんだろう？」と楽しみにしていたが、羽化する様子は見届けられず残念がっていた。
- 秋になり、テントウムシは落ち葉の間で越冬することを知り、戸外に出ると「ここにいるのかな？」とつぶやく姿がある。他にもトマトにはつかなかったアブラムシをコスモスで見つけるなど、絵本で見たものを実際に見ることができた。



- 絵本や図鑑で見たこと、聞いたことをよく覚えていて、発見をクラスのみinnで教え合って共有していた。「うわ〜、本当だ」「これのことか〜」と実際に見ることができたことでさらに興味を深めることができた。
- テントウムシが羽化しそうなタイミングで休日が入ってしまい、見られずに残念だった。一時的にケースで観察するなどすれば、実感のわかなかつたさなぎとテントウムシが結びついたのかもしれない。

②【令和2年7月11日 雨降り散歩（園舎周り・コミセン周り・農村公園）】

活用した自然資源

保育園周辺の植物

<活動内容>

- ・雨降り散歩に出かけ、雨にちなんだミッションを行い、その後マップを作る。

<ねらい>

- ・雨の音やにおい、また植物、虫はどうなっているか、友だちと一緒に発見したり、気づきを共有したりする。

- ・3つのグループに分かれ、散策しながらミッションを行っていく。『雨宿りをする』『水たまりに入る』など雨ならではの経験を楽しむ。



- ・カタツムリを見つけるために葉の裏などを探すが、なかなか見つからず、ある木の根元にはナメクジだけがたくさんいる。「なんでナメクジだけでカタツムリはいないんだろう？」と不思議そう。ようやく1匹の赤ちゃんカタツムリを見つけ、みんなで観察する。
- ・園に戻ってからはマップ作り。「大きい石あった」「ここにダンゴムシいた」「葉っぱに大きい毛虫もいた」など思い出しながら何を作るか決めて制作をする。「カエルを作りたいけどわからない」という子は図鑑を見ながら作っていく。
- ・完成したらグループごと披露し、「水たまりに入るのが楽しかった」「カタツムリを見つけるのが大変だった」など感想も発表する。



- ・雨ならではの楽しさを経験することができ、一つの発見をみんなで共有したり、認め合うことができ良かった。
- ・マップを作ることで見たことや気付いたことを話し合い、意識することができたので良かった。秋、冬と季節の変化を引き続き楽しみ、自然への興味が深まるようにしていきたい。

5 黄金保育園 ①5歳児 ②3・4・5歳児

活用した自然資源

川・魚・ザリガニ・沢蟹
ヤゴ・サンショウウオ

①【令和2年7月初旬～10月中旬 川遊び（沢[金峯登山口]・八沢川[水沢]・堰農業用水[園周辺]）】

<活動内容>

- ・川遊び（泳いだり、魚などの生き物を捕まえたりする）

<ねらい>

- ・水中、周辺の生き物に触れたり、遊んだりして川に親しむ。

- ・7月初旬、金峯山の登山口にある安国神社に出かけ、近くにある沢に入り、全身で冷たい水を感じたり、石をどけて沢蟹やヤゴなどの生き物を探して楽しみました。
- ・8月7日、夏のお楽しみ会と称して水沢地区の八沢川に出かけ、川遊び伝道師の長谷川さんから魚の捕まえ方を教わったりしながら川遊びを楽しんできました。
- ・魚やザリガニを捕まえることができました。



- ・10月中旬、園周辺の田の稲が刈られ、田んぼに入って遊ぶ機会が増えてくると、堰に近づき、泳いでいる魚を発見したA君。魚を捕まえたくて、「中に入っている？」と保育士に聞くA君。
- ・中に入ってみるが、何かに気づいたようで園に戻っていた。そして、たもを持ってきて中に入り、夏に長谷川さんから教わりながら魚を捕まえたことを思い出し、草の陰に隠れていないか足でおびき寄せ魚を捕まえることができました。

- ・夏の川遊びの経験から、園周辺の自然・川（堰）にも興味関心を持ち、遊びに広がりが見られた。
- ・実体験は子どもの頭・心にしっかり残り、今後の活動やこれからの様々なことに活かすことのできる貴重な体験となると思った。
- ・「危ないから」といってすべてを取り除いたり、禁止するのではなく、ルールを知らせたり、安全に楽しめるための準備や対策、保育士間で共通理解していくことを徹底していきたい。また、子どもも保育士も危険に対する予知や注意する安全能力を高めていきたい。

②【令和2年10月16日（金） 身近な秋を満喫しよう！（園周辺の裏山や川、田んぼ）】

<活動内容>

- ・川遊び ・裏山探検 ・ヤマゴボウを使ってのお絵描き
- ・焚火 ・焼き芋

<ねらい>

- ・身近な異年齢のお友だちと一緒に秋の自然に触れて遊びを楽しむ。

活用した自然資源

園周辺の山、川、火、山に自生しているヤマゴボウの実、畑の里芋、さつま芋

- ・普段の遊びの中で、ヤマゴボウの実を石でつぶして「ぶどうみたいな色」と自然物から鮮やかな色が出ることに気づき、楽しんでいた。
- ・これまでの子どもの姿を捉え、図画用紙と絵筆を用意し、戸外にあるテーブルにお絵描きコーナーを設定しておく、裏山から採ってきたヤマゴボウの実を絵筆でつぶして、「絵の具みたい!」と絵を描き始めた4歳児。その姿を見て、「ヤマゴボウどこにあった?」「あっちだよ」と、異年齢児でヤマゴボウの実がなっている場所を伝え合っていた。
- ・「先生みてみて!くまだよ!」「これは自分の顔」などイメージしながら描いたり、逆に描いたものをイメージして友だち同士伝え合ったりと、時間たっぷり自然物を使ってのお絵描きを楽しんでいた。
- ・描いた絵を、フェンスに洗濯バサミで飾ると、「美術館みたいだね!」と描いた絵をみんなで眺めていた。



- ・身近な自然物を遊びに取り入れて楽しんでいた子どもの姿から、画用紙や絵筆を用意するなど、保育士が環境を投げかけたことで、自然物を使って自由にのびのびと表現する楽しさを味わうことができた。また、五感で秋を感じ、楽しむことができた。
- ・ヤマゴボウだけでなく、その他の草花を使って「この草ならどんな色が出るか」と、秋の草花への興味関心をさらに広げていけたらと思った。

6 大東保育園 ①0歳児 ②2・3歳児 ③4・5歳児

活用した自然資源

枯草、風

①【令和2年秋 園庭探検（保育園の園庭）】

<活動内容>

- ・自由に探索遊び

<ねらい>

- ・自由に歩行を楽しみながら探索あそびをする。



- ・靴を履いて一人で歩けることが楽しくなり、広い園庭で自由に探索を楽しむ。
- ・その日は心地よい暖かさで吹いている風も気持ちが良い。まだ歩くことがおぼつかないK君は、時々柔らかい土の上にひざまづいては立ち上がり歩くことを繰り返す。
- ・地面に手をついたと同時に枯草を握った手の中から枯草が風に飛ばされると「あれっどうして？」と不思議がっているような表情で自分の手元を見る。
- ・握っている枯草を風が飛ばして面白いと感じたようで、片手で枯草を拾っては手を前に突き出し、「かぜさんと とんでけー」と言っているようにして、何度も繰り返し楽しんでた。



- ・土に手を着いた時に無意識に握った枯草を風が飛ばしていく面白さを感じ、「楽しい、もっとやってみたい」と気持ちが高まっているような姿だった。
- ・乾いた草の感覚、におい、風の心地よさ、手からさらっていく面白さなど自然を感じ取れた経験だったと思う。
- ・動きや表情から遊びの楽しさを敏感に捉えて、保育者も自然の楽しさ、不思議、発見など共感し、一緒に園庭探索を楽しんでいく。

②【令和2年10月27日（火） 散策 いつもと違う森へでかけてみて（休暇村庄内羽黒）】

<活動内容>

- ・バスに乗って、いつもと違う森に出かける。
- ・整備された散策路を歩きながら、発見や気づきなどを、みんなで共感しながら森の散策を楽しむ。

活用した自然資源

杉っぱ

<ねらい>

- ・散策を通して、自然物に触れ、感じたり、見立てたり、友だちと思いを共有したりし、心地よさを感じる。

- ・2～5 歳児で休暇村庄内羽黒の裏山に散策に出かけた。自然物に触れ、葉っぱや枝、切り株、水の流れなどを見つけては、感じたことを伝え合い、みんなで見たり触れたりし、共感、共有しながら歩いていった。



- ・3 歳児 A 君が杉の葉を見つけた。他の男児たちも刺激され、杉の葉を拾った。すると、A 君が散策道を「おそうじ～」と言いながら掃除を始める。
- ・3 歳児 B 君も一緒に掃除し始め、女兒も掃除する姿が見られた。落ち葉が少々湿っぽく、きれいに掃けなかったが、一生懸命に腰を低く掃き、きれいになったと満足していた。

- ・園外に出かけた解放感、いつもの森とはまた違った景色に子どもたちの気持ちは嬉しさとワクワクで感じる力が敏感に働いていた。その中で、自分の感じたことやそこから発想する事柄などを友だちと共有できた。

- ・他にも上を見上げて杉の葉の先の水滴が光っているのを見て、「ほら、雨だよ、雨が降ってきたよ」などのつぶやきも聞かれた。
- ・保育者が子どもたちの発見やイメージなどに共感することで、子どもたちの発見意欲、想像意欲などの高まりを感じた。普段から発見、観察などでのわくわく感を共感したり、クラスで共有したりすることを大切にしてきた。
- ・園外では、子どもたちの興味が分散しやすくなってしまふ。子どもたちの動きに合わせて対応できるように、普段から保育者同士で自分や子どもたちの動きを声を掛け合うことを意識してきたが、改めて保育者間の連携が大切だと感じた。

③【通年 森へ行こう（保育園周辺の森・公園）】

<活動内容>

- ・森探検や地域の公園に行き、自然に触れながら季節の変化を感じる。
- ・捕まえた小動物や植物を園に持ち帰り、観察したり図鑑で調べる。
- ・ネイチャーゲームなどをして興味関心を広げる。

<ねらい>

- ・ありのままの森に足を踏み入れ、そこにある自然物への興味関心を広げ、自ら遊びを作り出すことを楽しむ。

- ・落ち葉や松ぼっくり拾いをしている時に発見した不思議なもの。「これなんだろう?」と問いかけてみると「エビフライ!」「えっ?なんで?」と大興奮の子どもたち。
- ・保育園に持ち帰り、図鑑で探してみるがわからず、みんなで「これはいったいなんだろう?」と話し合いが始まる。
- ・「松ぼっくりじゃない?松ぼっくりは水に入れとくと閉じるんだよ」ということで水に入れて様子を見ることになる。



- ・2週間たっても変わらないことが分かり、今度は水から出して様子を見ることになるが変化なし。
- ・松ぼっくりの歌を歌っていた時に歌詞の“お猿が拾って食べたとき”から「誰かが食べたんじゃない?」ということに気付いた子どもたち。

- ・絵本で調べ、リスが好きな食べ物の中に松ぼっくりがあることが分かり「リスが食べたんじゃない?」ということになる。
- ・園長先生にお願いして動画を見せてもらうことになり、実際にリスが松ぼっくりを食べている様子を見て「リスだったんだ!」「リスがいるってことなんだね」と気づきの声が聞かれた。

- ・「これはなんだろう?」と子どもが不思議に思った事を保育者が受け止めながらも、すぐに答えを伝えるのではなく、一緒に考えることで自分なりに考え、伝え合うことで興味関心を持つて試してみることができた。
- ・うまくいなくても「次は~してみよう」という思いにつながった様子から子どもたちの好奇心の大きさを感じた。
- ・一年間を通して親しみある森や地域の公園に出かけ大自然に親しむ中で、「赤い実は触っちゃダメなんだよ」「葉っぱの色が変わった」「この穴はウサギのおうちかな?」など子どもたちの気付きや、「何かな?」などの子どもたちの想像力のすばらしさに保育者も感動することがたくさんあった。
- ・安全対策を十分に行うことで保護者の不安軽減を図り、大東保育園周辺の恵まれた大自然に触れられる機会を大切にしていきたい。

7 いずみ保育園 ①②③5 歳児

活用した自然資源

よもぎ、桜の花びら、
たんぽぽ

①【令和2年5月12日（火） よもぎ茶作り（園庭）】

<活動内容>

- ・よもぎの葉っぱを見つけてのお茶作り
- ・いろいろな植物を使ったお茶作り

<ねらい>

- ・よもぎを探して触れたり、においを嗅いだりしながらお茶作りを楽しむ。
- ・いろいろな植物に触れながらお茶作りを楽しむ。

- ・子ども達が植物の写真カードを見ながらよもぎの葉っぱを探し、「よもぎの葉っぱってこれ？」と保育者に見せにくる。
- ・写真カードと並べて見ると「ここがちょっと違うね」と子どもたちの気付きがみられた。



- ・「よもぎのお茶を作ろう」と子どもたちが見つけたよもぎの葉っぱをすりこぎでつぶしたり、すったりしながら作ったお茶をペットボトルに入れると、「お茶の色してる！」と友だちのお茶と比べていた。

- ・「この花びらでもお茶を作れるかな？」と桜やたんぽぽの花を摘んできた女の子たちが早速、すりこぎでつぶしてみる。
- ・花びらによもぎを足してみると色が変わり、「ミックスジュースになった」と違う色を楽しんでいた。



- ・実際によもぎを探し、手に取ってにおいを嗅いだり、ジュースの色を友だちのものと比べたりしながら一人一人が自分のお茶作りを楽しんだ。ペットボトルに入れたお茶をテラスに並べて色の違いを感じることができた。
- ・葉っぱだけでなく花びらも入れてみようという発想からミックスジュース作りに発展できたのはよかった。匂いや色の変化にも気付くことができた。
- ・最初からよもぎにこだわらず、子どもたちが興味を持って採ってきた草花を使って遊んでもよかったのではないかな。

②【①令和2年10月21日(水) ②令和2年10月29日(木) ③令和2年11月2日(月) クリスマスリースを作ろう (①園庭 ②市野山神社・園周辺農道 ③保育室)】

<活動内容>

- ①園庭でくずのつる収穫 ②近くの神社で木の実探し
- ③クリスマスリース作り

<ねらい>

- 自分たちで採ってきたつるや自然物を使ってクリスマスリース作りを楽しむ。

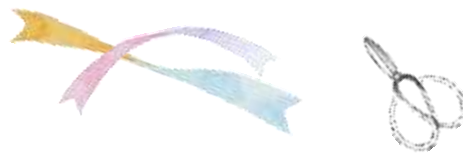
活用した自然資源
くずのつる、松ぼっくり、どんぐり、南天、むらさきしきぶ、杉の実、つばきの実

- 園庭でリース作りに使うくずのつるの収穫をする。その時、「これを引っ張ってみよう」と子どもたちが引っ張って遊び始めた。



- 作ったリースに飾る木の実を探しに散歩に行く。「何かないかな？」と植木の下をのぞき込んだりしながら探す。
- 「先生、これどう？」と杉の実を見つけた子どもたちだった。

- 子どもたちが見つけた杉の実に色をつけたことで、「わあ、きれい」と興味を持って手に取り、自分のリースの飾りつけを楽しむ姿がみられた。



- 子どもたちと一緒に探して収穫していったことで、最後まで興味を持って取り組み、自分だけのリース作りを楽しむことができたと思われる。
- ポンドの使い方や貼る場所を考えることなどは経験を重ねることも大切だと思った。
- 自然物がない年でも自然の変化に気付かせるような援助や声掛けが必要だった。

③【令和2年11月12日（木）
ロングロング散歩（大鳥居まで行こう）（大鳥居下の広場・近くの農道）】

活用した自然資源

野大根、松ぼっくり

<活動内容>

- ・秋探しの散歩

<ねらい>

- ・長距離を歩くことを楽しみながら、秋の自然に触れる。

- ・長い距離を歩く中で辺りの景色を眺めたり、草花や木の実探し、虫探し探検を行ったりしながら、ゆっくりと秋の自然を楽しむ。
- ・現地に到着すると何かを見つけた子どもたち。葉っぱを引っ張り、「先生、これ大根だ」と野大根を見せてくれた。



- ・それを見て、自分も掘りたいと思った子どもたちが野大根を探し始める。「この辺にあるかな」と子どもたちで声を掛け合いながら夢中で探した。

- ・「先生、見つけたよ」とうれしそうに見せてくれた男児。他にも一生懸命探して収穫した子どもたちが「おみやげにする」と手に持ち、喜んで帰ってきた。



- ・松ぼっくり探しよりも野大根探しで盛り上がった。昨年、違う場所で野大根掘りをした経験が子どもたちに残っていて、保育者が声を掛けなくても自分たちで「これ、野大根かな」と気付いて収穫することができたのではないかと思う。
- ・毎年、秋に大鳥居まで散歩に行っているが、季節の変化に気付けるよう違う季節（春）に行くのもよいのではないか。



8 福栄保育園 2歳児～5歳児

活用した自然資源
保育園周辺の草、ミント

【令和2年8月 面白い草花あそび（保育園のプール・水あそびスペース）】

＜活動内容＞

- ・水あそびで感じた不思議から、楽しんできた草花あそびが加わって、楽しさ倍増。

＜ねらい＞

- ・続けてきた草花あそびの展開をさぐる。

- ・春から草花をすりつぶして、不思議や面白さを感じていた子どもたち。プールあそびで楽しんでいたある日、太陽の光が水面にあたりプールの底に模様が出来たのを発見し、何かを浮かべてみたいとあれこれ試していくうちに、プールの周辺に生えている草を取って浮かばせていた。



- ・草花すりつぶしあそびがブームになっていたのので、草をちぎってみたり、揉んでみたりしている。「プールの水、色変わんないね」「葉っぱの影も見えないで沈んだ」と色々な発見が飛びかった。「お風呂に入れるやつみたいの良い匂いがしたら良いのになあ」の誰かの声に反応。

- ・玄関先に植えてあるミントの葉っぱに毎朝水かけをしていて、良い匂いがする事を思い出してミントを摘みに子どもたちが走る。両手でミントの葉を挟んで叩き「うわぁ～良い匂い」と匂いをかいではプールに入れて、まだまだ足りないと言ってはミントの葉を摘んできていた。
- ・2歳児も見てまねをしはじめ、「ミントの葉っぱのおひげ!」「良い匂い!」と喜んでた。
- ・ミントプールだ!といつもより潜ったり水をかけあったり、癒やしが加わったプール遊びがしばらくブームになった。



- ・友だちとの会話の中から共有できる思いが、普段からの生活活動からひらめき、試してみたいという気持ちにつながっていた。面白さや楽しさを、友だちと共有できることで、あそびの展開が無限に広がっていくように感じた。
- ・縦割りの保育活動は、小さい子に沢山の刺激を与えている。小さい子なりの発想が面白く、その様子や声をしっかりと受けとめていきたいと思う。

9 小堅保育園 5歳児

活用した自然資源

海でとれた魚・カニ

【令和2年10月21日(水)～22日(木)】

やったー！うまづら釣れたよ 蟹が取れた！(小堅保育園周辺の海[新田の澗・カモメ島・小波渡漁港近く])

<活動内容>

- ・小波渡漁港近くで釣りをする、新田の澗で蟹を捕まえる。

<ねらい>

- ・海の恵み(魚・カニ)をいただき、命の大切さを知る。

- ・天気の良い日は、毎日のように、漁港に行ったり、新田の澗に行ったりしている。ライフジャケットを着て、釣りの準備も進んでやるようになってきた。
- ・その日によってよく釣れる時とあまり釣れない時があるが、だんだんタイミングや感覚を掴んできている。そのことに喜びと自信が出てきたようだった。
- ・K君が「フグは釣ったことあるんだけど、うまづら(カワハギ類)釣ったことないんだ」と昨年から言っていた。



- ・何回も釣りに行ってはいるが、なかなか釣れない。「今日こそ！」と釣りに行って、念願のうまづらが釣れた。目をキラキラさせて嬉しい表情がみられた。
- ・「なんか釣り竿がツンツンする時はフグ！ググッとくるのはうまづらなんだよね」と釣りで感じる手の感覚もつかんでいるようだった。



- 包丁は何回も使っているなので、皮をはぐ時も、「こうかな？」と言い、考えながら小さい箇所（内臓）も取って慎重にさばっている。
- 子どもたちと一緒に素揚げをすると、「うま〜い」と言いながら、パクリと食べて、「よし、小さい組にもごちそうしなくちゃ！」と人数分に小さく分けて持っていく。
- 他の子にも分けてあげて、「美味しい？」と聞いて反応を楽しんでいる様子があった。
- 1歳児も「おいしい〜」「ありがとう」の自然の会話ができている。



- 次の日は、5歳児と1歳児と一緒に新田の潤に出掛ける。何度も行っている5歳児が「カニ、石の下に隠れているんだよ」と教えてくれた。1歳児「どこ〜」5歳児「ドンドンすると、カニさんびっくりするよ」し〜として見せる様子があった。1歳児も真似している。

- 5歳児が捕まえている様子をじ〜っとみていたが、「どうやって？」と聞いてきた。5歳児が石をどかしてあげて「ほら、ここにいるよ」と捕まえさせて、掴みやすいように優しく接してくれる。
- 1歳児「やった〜！みてみて 捕まえたよ」と嬉しそう。それを見ていた5歳児も嬉しそうだった。
- まだ、カニに挟まれる怖さは知らない様子で、次々と探そうとしていた。





- 園に戻り、一緒にとったカニを素揚げして分け合って食べることができた。
- 「また行こうね」とその後も何回も地域の海に行って、しのご鯛、アジを多く釣って釣果を喜び、カニを捕まえたりして、“食べること”を楽しんでいた。



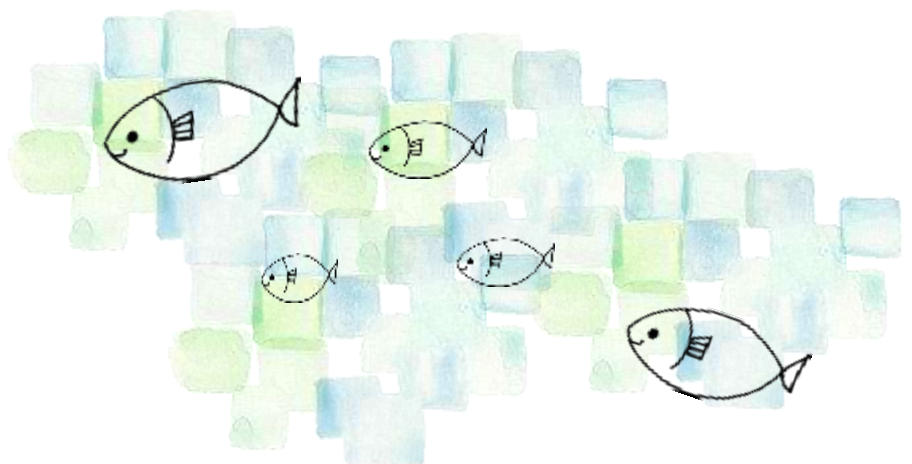
- 日々の生活の中で 見つけ、触れ、体験しながら、自然の恵みをいただき、生きる力（食育）を育てている。
- 魚に触れるのはもちろん、匂い（臭い）・感触（ぬめり）・色・味など五感を使うことで感性が育ってきているように感じる。
- 包丁、火も注意しながら「自分たちもできる！」という気持ちを持ち、楽しめるように自分でやれる満足感、達成感を味わっている。

- 釣り場・岩場など危険と隣り合わせなので、何が危険で何が大丈夫なのかを知らせながら子どもたちが体験していくようにしているが、子どもたちの気づきを大切にしながら保育者も模索し、自然について考えていきたい。
- 活動の中で、海・山の恵みにも限りがあり、自分だけよければいいということではなく、他の人・動物・生き物のために残したり、植物の成長を見守っていこうと声をかけたり、保育者が教えたりしなくても自然と気が付くようにこれからの世代につながる保育をしたいと考えている。
- 命の大切さを感じることは、子どもたちの未来につながっていると思う。





- 生活の中でも、子どもたち同士でやり方を伝え学び合う機会や関わりを大事にしていきたい。
- 鮭をいただいたり、山菜採りに一緒に行ったり、地域の方からは常に気に掛けてもらっている。子どもたちもそのことを嬉しく思い、感謝の気持ちを持って接しているので、人・地域との関わりをこれからも大切にしていきたい。



10 田川保育園 ①5歳児 ②4・5歳児

活用した自然資源

近隣の野草、野花、池の水、雪

①【令和2年6月～令和3年2月 田川自然博士になろう（田川保育園園庭・やすらぎ公園・近隣の農道など）】

<活動内容>

- ・午睡の時間に田川地区の散歩をし、そこで見つけたものを調べたり、植物の感触や香りを感じたりする。
- ・捕まえた生き物を保育園で飼育する。
- ・園庭ややすらぎ公園で冬の雪遊びを工夫して遊ぶ。

<ねらい>

- ・田川地区を散歩しながら、自然物（生き物、植物）を見つけ、生息する場所や季節の変化に気付く。
- ・保育園周辺にある自然物を使い、いろいろな発想で遊ぶ。

- ・保育園の周辺を散歩していると小さい草花が意外とたくさん咲いていることに気がきます。「他にもあるかなあ」と探していると、「私は黄色い花をみつけたよ」「私は水色（の花）」と比べはじめます。
- ・何日後かに同じ場所を通ると咲いていた花がなくなり、違う草花を見つけました。「今日は違う花が咲いてるね」と何度も同じコースを散歩すると子どもたちの気付きが増えてきます。



- ・やすらぎ公園の池で捕まえたザリガニとメダカは保育園で飼育することに。
- ・図鑑を使って飼育の仕方を調べ毎日観察します。
- ・友だちと相談してエサやり当番を決め、エサをあげ忘れないようにしました。



- ・雪遊びでは、そのコースや乗り方を工夫して遊ぶ姿が見られました。
- ・その日の雪の状態によって滑りが違うことに気がきました。また陣取り雪合戦をした時は、公園の地形をうまく利用できるように話し合っって範囲を決めました。

- ・季節を通じて散歩をすることで、子どもたちは動植物の変化に気付いたり、興味が広がったりしました。子どもたちは見つけた植物の名前を調べたり、捕まえた生き物の飼育をしたりして近隣の動植物のことが詳しくなりました。後半になると自分たちで散歩のコースを選ぶようになりました。
- ・散歩する場所が同じようになる傾向があったので、広い田川地域をいろいろと散歩できるように工夫したい。
- ・安全性を考慮しすぎると保育者主導の活動になりがちなので、子どもたちとよく話し合い、子どもの関心をよくみて子どもが主体的に活動できるようにしたい。

②【令和2年8月～12月 水辺の生き物を探そう（やすらぎ公園・加茂水族館）】

<活動内容>

- ・隣接するやすらぎ公園で生き物さがし、保育園での飼育。
- ・ゆうぎ会で生き物を題材にした劇ごっこ。
- ・園外保育（加茂水族館）

活用した自然資源
 やすらぎ公園の生き物、
 水中植物、水族館の生き物

<ねらい>

- ・田川地区を散歩しながら、自然物（生き物、植物）を見つけ、生息する場所や季節の変化に気付く。
- ・保育園の周辺にある自然物を使い、いろいろな発想で遊ぶ。



- ・隣接するやすらぎ公園で見つけたザリガニやメダカを捕まえ、保育園で飼育してきた子どもたちは、水辺の生き物に興味を持ち、ゆうぎ会でも「スイミー」を発表。



- ・近くの生き物から海の生き物へと関心が広がり、加茂水族館で本物の魚たちを見ることができた。
- ・2月の子ども美術館では、ゆうぎ会や加茂水族館での体験を製作物にして展示した。

- ・自分たちで捕まえた生き物を園内で飼育することで、生き物の生態に興味を持つことができた。
- ・子どもたちは生き物を好きになり、劇ごっこでの表現はとても特徴的だった。
- ・季節の移り変わりとともに活動を変化させ、継続して活動することができた。

11 三瀬保育園 3歳児

活用した自然資源

畑

【令和2年9月～12月 おおきなかぶを育てる（畑）】

<活動内容>

- ・保育園の畑でかぶの生長を追うとともに、周りの自然にも目を向けていき、同じ場所で動植物がそれぞれ生きていることを知る。

<ねらい>

- ・身近な自然に興味を持つ。

- ・3歳児クラスは年中・長児クラスが畑で夏野菜を育て、収穫して食べる活動をすぐ近くで見てきた。
- ・夏野菜収穫後、3歳児クラスで畑にかぶの種を撒き、生長を追うことにした。
- ・毎日畑に行き、芽が出る日を待ち、かぶの育ちの見通しが持てるように『おおきなかぶ』の絵本を何度も見ながら、観察をした。
- ・保育者はかぶを育てた実体験を生かして、12月の劇につなげていきたいと思っていたが、子どもたちはかぶだけでなく自然そのものに目を向けていた。
- ・Kちゃんが「かぶの葉っぱを虫さんが食べていたよ」と気付いたことを大きな声で言うと、周りの子どもたちはKちゃんの言葉に誘われて集まり、葉っぱを食べる虫がいるという事の気づきのきっかけになった。
- ・S君が土を掘ったときに幼虫を見つけた。
- ・しばらく観察した後、「また明日ね」と土の布団をかけ、翌日も同じ場所を掘り「いた！！」と発見を喜んだ。



- 何日か繰り返していたが、ある日から幼虫を見つけられなくなり、別の場所にいるかもしれないといろいろなところを掘って探したが、出てくるのはダンゴムシやナメクジなどであった。
- 幼虫は見つけれなかったが、「みんなでここに住んでいるんだ～」と周りに伝えていた。



- 「聖護院かぶら」という子どもたちの顔よりも一回り大きいかぶが産直にあったので購入しました。
- 漬物にしてもらい、みんなで食べると、野菜が苦手な M 君も食べるとお皿を差し出してきた。「おいしい」と食べて何回もおかわりをした。



-
- 保育者としてかぶの生長を追うことにねらいを持ちながらも、子どもたちから次々に湧き出てくる思いに柔軟に共感していくことが子どもの好奇心を育むうえで大切なことであると思った。
 - 収穫時にすべて収穫してしまったが、いくつか残しておき、花が咲いて朽ちていくところまで観察できるようにすると、かぶの生態全てを観察することができたのではないかと考えた。



12 特定非営利活動法人 明日のたね 未就学児親子

【通年 毎週金曜日 親子でのんびりお散歩&弁当開き (長沼ともにひろば周辺)】

<活動内容>

- ・4月から12月まで長沼ともにひろば周辺をお散歩。
- ・長沼地域を雨の日も晴れの日も草花や生き物を見つけながらお散歩する。
- ・虫よけスプレーづくり
- ・畑づくり (土づくり・苗植え・世話)
- ・スパイラルガーデンづくり

※スパイラルガーデン
渦巻き状に中心が高くなるように設計された花壇

活用した自然資源

石、松ぼっくり、草花など

<ねらい>

- ・親子で身近な自然の中で季節の移り変わりや天気によって変わる風景や出会う生き物の違いを様々な感覚を使って感じる。
- ・じっくり観察、好きなものを集める、草花あそび。

- ・ホールから外へつながる出入口からハイハイで外へ出て、階段に座って草に手を伸ばして触りました。なでるように触ってみたり、引っ張ったり、ぎゅっとつかんでみたりしていました。
- ・その日をきっかけに、ホールからハイハイで外へ出ては一番下の階段に座り、草や葉っぱを触り、ちぎっては放しを何度も繰り返していました。
- ・園庭はふかふかしている所があったり、でこぼこしています。平らなところをやっと歩けるようになったA君にはちょっと大変そうでした。



- ・2、3歩あるいては転びを繰り返します。
- ・時々ペタンと座り、自分の周りにある葉っぱに手を伸ばしてなでたり、引っ張ってみたりしていました。



- 石を投げて、はじける音を聞いて笑っています。何度も繰り返しているうちに、そばにあった側溝のふたに当たり、今までとは違う音が鳴りました。



- はっとしたように今度は側溝のふたをめがけて投げ始めます。そして、ふたの上で石を落とすし始めました。
- 穴を見つけ、そこに石を入れました。入れてはのぞき込むことを繰り返していました。



-
- 子どもが興味を持ったものにじっくりと飽きるまで付き合う。
→子どもが面白いと感じていることがわかってくる。
→そこから「工夫」が生まれ、遊びが広がる。
 - 子育て支援センターの強みは親子で参加できるという事。遊びをとめないために、事前に保護者へ外で遊ぶことで服が汚れたり、擦り切れてしまう事を伝え了承を得た。子どもが好きなように動き回ることが出来た。
 - 子どもがお座りやハイハイの時期からでも外での活動や自然や植物とじっくりふれあい、観察することで新しい発見をしていくプロセスを提供できた。
 - 保護者に一緒に活動することで、目的地に行って帰ってくるだけの散歩ではなく、身近な植物に関心を持ち、散歩の楽しみや遊び方を実体験として伝えることが出来た。
 - じっくりと触れ合っている時の声掛けや見守り方をスタッフ間で共有していくことが課題である。
 - 畑は思うように野菜が育たずに、収穫してみんなで食べるところまではいかず、スパイラルガーデンは土を盛るところまでで今回は終わった。
 - 今年度は畑・スパイラルガーデンづくりに挑戦したが、すぐに成果は得られなかった。簡単に考えすぎていたので、来年度は時間・手間をかけてじっくりと取り組んでいきたい。

体験活動

保育園に在籍している子どもに限らず、一般の子どもや親子を対象とした自然体験活動も推進しており、実施の支援を行っています。

1 中央児童館 概ね2～3歳親子

活用した自然資源

マコモ、都沢湿地の植物

【令和2年10月22日（木） なかよし母親クラブ「遠足」（鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」）】

<活動内容>

- マコモリース作り・自然散策・自然の中で食事をする。

<ねらい>

- 秋の自然に触れ、楽しむことで親子が自然を身近に感じ親しみを持てるようにする。

- マコモを土台にし、ほとりあ周辺の秋の草花を飾ったリース作りを行った。
- 飾りの素材集めに戸外へ行くと「猫じゃらしみつけた！」と見慣れた草花を早速発見していた。次々にたくさんの種類を集める姿や、草花をじっくり観察して色や形の中からお気に入りを見つけ、1つの種類だけを摘んで集める姿もあった。



- 木に若い枝が出ているのを発見し触った。バネのように跳ね返るのが面白く何度も繰り返し触っていた。その楽しそうな姿を見て自分もやりたいと友だちも加わっていった。自然の中で子ども同士の微笑ましいやり取りが見られた。



- マコモリース作りでは、マコモを編む作業から始まり、大人が中心になり活動が進んだ。子どもたちも草の端をつかんで、大人が完成する姿を手伝い応援している様子が見られた。
- 土台が出来上がると摘んできた草花を得意げに出し飾っていた。リースの丸の中から顔を出したり、ハサミで草花を切って飾りやすくしたり、それぞれが思い思いに充実した時間を過ごしていた。



- どの子も躊躇なく自然の中に入り、探索や草花採りを行うことができた。植物の色や形にこだわって集め、虫の動きを観察するなど主体的に遊んでいる様子が見られた。
- 保護者の方もその姿に寄り添い、時に声を掛けて日頃から子どもを尊重した関わりをしているように感じた。活動のねらいは十分達成できたように思う。
- マコモリース作りは、親子で協力してリースを作り上げる喜びや完成したことへの達成感があり、保護者のリフレッシュにも繋がったようで好評だった。



2 子ども家庭支援センター 1歳以上の未就園児親子

【令和2年9月17日（木） 自然の中であそぼう（鶴岡公園）】

<活動内容>

- ・鶴岡公園内で、草や砂利の上、起伏のある場所の散歩を楽しむ。
- ・鳥や虫探しをしながら、生き物に興味を持つ。
- ・屋外でかけっこやシャボン玉遊び、ボール遊びを楽しむ。

<ねらい>

- ・身近な自然環境の中で、体験しながら親子で一緒に楽しむことで、自然の中であそぶことに興味を持ってもらう。
- ・いつでも体験できる場所を改めて紹介することで、散歩の延長に自然体験ができることを知ってもらう。

活用した自然資源

公園内の草木、地面に落ちて
いるもの、鯉、カモ、トンボ、
ザリガニ

- ・餌やりをしていてカモの近くに餌を投げられず真下に餌を落とし「おいで～」と呼んでいたK君。カモが気付いて餌を食べる姿を見て大喜び。

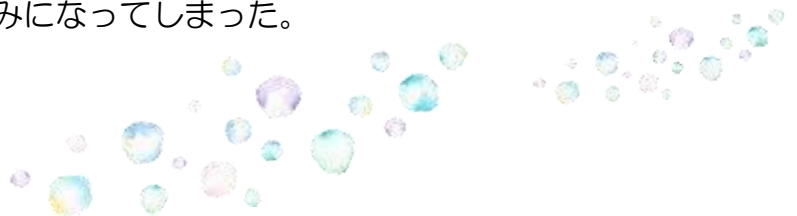


- ・まわりのお友達がシャボン玉をしていて興味を持ったA君。ママがして見せてくれると「(ぼくにも) ちょうだい。」とやる気満々。
- ・その隣では、芝の上にたくさんのシャボン玉を見て「うわ～っ」と目がくぎづけのH君の姿もありました。





- 「公園散歩がこんなにいろいろな体験ができるとは思わなかった」と参加したママたちから声が聞かれた。
 - 天気にも恵まれ、芝の上や砂利道が歩きやすかった。抱っこで移動する姿もあったが、子どもの気の向くまま自由に散策を楽しむ場面も多く見られた。
 - 鯉やカモへの餌やりを通して、「こんなこともできるんだ」「鯉よりカモが食べるね」「あっちの方がいっぱいいる」など発見があり、親子で餌やりを楽しめた。
 - 数種類のボールや風船、シャボン玉を用意したことで芝の上で安全に動き回って遊ぶことができた。
 - 公園の収集物（自然物）でハーバリウムをつくった。子どもが拾ったものを入れたり、親子で瓶にいれたり、子どもの年齢は低くても一緒に楽しんでいた。
- ※ハーバリウム
ボトルの中に、ドライフラワーやプリザーブドフラワーを入れて専用のオイル注いで蓋をしたインテリア。
- 下見でザリガニをたくさん見つけたが、前日に雨が降り、水が濁りザリガニが見つけられず、1匹早朝に捕まえたものを見せるのみになってしまった。



研修助成

自然環境を活用した保育等の実践能力の向上を目的とした自主研修に対して支援を行っています。

1 東部保育園

○区分 研修の企画及び実施

○日時 令和3年1月28日（木）

○内容

講話：「自然環境を生かした保育の視点」

講師：上山剛司氏（庄内自然博物館構想推進協議会 事務局/鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 学芸員兼副館長/環境教育工房 LinX）

○参加 保育園職員 39名

○目的

- ・自然環境を活かした保育の意義や大切さを知り、保育者の役割や関わり方について基本的なことを学ぶ。
- ・東部保育園周辺の自然環境を生かした保育を充実させるためのヒントを学ぶ。

○感想

- ・自然を活かした保育の大切さを職員一人一人感じてはいたものの、改めて具体的な事例をもとに学ぶことで再確認することができた。
- ・子どもを捉える保育者の視点も学び、自然環境を生かした保育の視点について職員全体で共通理解ができた。
- ・学んだことを生かし、さらに森の保育を充実させていくことがこれからの課題である。



2 小堅保育園

○区分 研修の企画及び実施

○日時 令和2年9月3日（金）

○内容

講話：「波渡なすが病気になっちゃった」

講師：江頭宏昌氏（山形大学農学部教授）

○参加 保育園職員 10名・波渡なすばばちゃん5名・園児 10名

○目的

- ・春から育ててきた波渡なすが夏になり元気がない。病気になってしまったのかどうか。
- ・今後、どう対処すればいいのかを教えていただき、考え方を学び、保育・生活に取り入れていく。

○感想

- ・子どもも一緒だったが、真剣に聞くことができ、これからどうしていったらいいかを学び、波渡なすの種取りまで無事終えることができた。
- ・先生の話聞いて工夫することで、波渡なすの生育がよくなり、なすが取れるようになった。
- ・種を植えた土の状態で植物の発育が変わることを知る。
- ・種用の土も大事であること、前年度使ったものでは、悪い菌が繁殖することもあり、発育がよくないことが分かった。そのことで、自然界の仕組みを感じ取ることができた。
- ・子どもたちの活動では限界があるので、地域の人々の協力があってこそだと感じる場面が多かった。

○区分 研修への参加（オンライン講座）

○日時 令和3年2月6日（土）

○内容

講話：「まち保育的おさんぽマップを作ってみよう」

講師：国際校庭園庭連合日本支部セミナー

○参加 保育士2名

○目的

- ・小堅の自然を活かす為に、どこにどんなものがあるか、保育者自身が学ぶ

○感想

- ・子どもたちの目線で五感がフルに活用できるようにして、「場所やルートを発見できる」ようにしていきたい。
- ・マップを作るプロセスを大切にしていく。
- ・まだ小堅地区のマップはできていないが、子どもたちの動きを想像したり、危険箇所を見通したりして作っていきたい。
- ・地域の方々（波渡なすばばちゃん）と仲良くなるためにそこにすんでるんだね！などの話題になればいいと思った。

3 三瀬保育園

○区分 研修の企画及び実施

○日時 令和3年2月18日(木)

○内容 SDGsを学ぶ

- ・保育の中でのSDGsの事例を各クラスごと報告をした。
- ・ノンヒューマンについて直接伝えることは大きくなってからでも良い。(1歳児)
1歳児の保育では子どもの思いを認め、共感し、感情面の育ちを大切にしていけることが大切である。加えて、働きかけの中に、どんな不思議さや面白さに気づいて欲しいかを大人が心に持っておくことも大切である。

※ノンヒューマン 人間を生かしてくれている多種多様な生命や物質

- ・幼児期は自然のことが歌詞に入っている歌に親しみやすい。(2歳児)
全人格的な学びとは五感だけでなく、勘や直感などの第六感やなんとも言えない雰囲気を感じることである。子どもが感じているその気持ちや目の前にある自然を歌にしてみるなど、一緒になって体験する大人がいることが大切である。
- ・幼児期は思うままに体を動かす体験をする時間を持つことができる。(5歳児)
雪を素材として遊ぶときに、運動あそび、造形あそびの他にも素材そのものの不思議さや面白さを体験することができる。一方、雪の重みで倒れた木を見ることで、自然の中で死んだ植物ではあるが、新しい芽が出てきたり、他のノンヒューマンとの関係にも気付くことができる。

○参加 保育園職員7名

○目的

- ・SDGsを学ぶ

○感想

- ・SDGsを取り入れた保育とは科学的な視点を増やすことではなく、自然や生き物に子どもたちが触れ合える機会を持ったり、体験で得られた気持ちを膨らませられる物語や歌を用いることが大切であるということがわかった。
- ・子どもたちの思いに気づき、認め、共感していく事が大切である。



2. 森の保育発信事業

つるおか森の保育フォーラム

先進的な取り組みをしている森の保育実践者の講演やパネルディスカッション、当研究会の活動報告などを行い、保育者・保護者はもとより、広く市民を対象に学習の場・情報交換の場として、開催しています。

令和2年度は令和3年2月21日（日）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催を延期しました。

活動ポスター展

「つるおか森の保育事業」及び「つるおか森の保育研究会」について、広く一般の方に知っていただくことを目的に、令和2年度に実施した活動をまとめたポスターを展示しました。

○期間 令和3年3月9日（火）～19日（金）※土日除く

○場所 鶴岡市役所 1階市民ロビー



3. 森の保育研修事業

情報交換会

会員間の情報交換を目的に、各施設が行っている実践事例とそれぞれが抱える課題・疑問等を発表する機会としました。また、発表事例及び講師から提起された課題についてグループ討議を行うとともに、講師からのレクチャーを通じて「森の保育実践事例の根底にあるものを確認すること」、「実践事例に意味を見出していくこと」を考え、学ぶことで、実践スキルの向上を図りました。

○開催期日 ①9月17日(木) ②11月26日(木) ③令和3年1月26日(火)

○会場 鶴岡市役所 別棟2号館会議室

○参加者 ①12名 ②13名 ③14名

○講師 小西 貴士 氏(インタプリター、山梨県在住)
※オンライン会議アプリZOOMでのリモート参加

※インタプリター
自然と人を仲介する森の案内人



つるおか森の保育研究会の概要

幼児期における森の保育の意義

東北一の面積を誇る鶴岡市は、市域面積 132ha のうち約 7 割が森林であり、その豊富な森林資源を活用して行政施策を展開する「森林文化都市構想」を掲げています。

人と自然との直接の対話こそが森林文化の原点であるという考えのもと、当研究会は平成 22 年 4 月に発足し、次世代を担う子どもたちの豊かな感性や健康な心身を養うために、森林や自然環境を活用した具体的方策についての情報収集や活動支援、研究を行っています。未就学児童の自然環境に親しむ中での「気づき」や「感じる心」を育み、共感の心や見る力を養うことを大切にして各種事業に取り組むことで、豊かな保育・子育てを支え、保育の質を高める一つの道しるべとなることを期待しています。

組織・運営体制

つるおか森の保育研究会は、保育園、児童館、子育て支援関係者等で構成しています。

■研究会の構成（令和 2 年度末現在、27 団体・個人）

○会 員

本間 日出子	会 長	三瀬保育園 園長
伊藤 直樹	副会長	田川保育園 園長
小田 仁	副会長	小堅保育園 園長
佐藤 美穂	かたばみ保育園	園長
高橋 奈津	東部保育園	園長
阿達 美枝	西部保育園	園長
高取 千昭	南部保育園	園長
齋藤 功	松原保育園	園長
阿部 由佳	新形保育園	園長
高橋 亨	大山保育園	園長
白幡 昭平	大泉保育園	園長
佐藤 崇昌	民田保育園	園長
秋野 涼子	上郷保育園	園長
今野 睦子	黄金保育園	園長
齋藤 由美子	大東保育園	園長
丸山 弘美	いずみ保育園	園長
後藤 誠	朝日保育園	園長
五十嵐 美智	福栄保育園	園長
菅原 光輝	ちわら菜の花こども園	園長
齋藤 聡	中央児童館	館長
伊藤 和美	NPO 法人明日のたね	代表理事
太刀川 悦子	NPO 法人みらい子育てネット山形	理事長
石田 幸	元中央児童館長・元公立保育園長	
長谷川 真弓	元中央児童館長・元公立保育園長	
佐藤 尚子	鶴岡市役所環境課	課長
本間 明	鶴岡市役所農山漁村振興	課長
熊坂 めぐみ	鶴岡市役所子ども家庭支援センター	センター長

○アドバイザー

平 智	山形大学農学部食料生命環境学科教授
神田 リエ	元山形大学農学部生命環境学科助教

交流保育

市街地にある保育園の子どもたちが、自然に恵まれた環境にある保育園を訪問し、自然体験活動をととした交流保育を行います。

自主保育

日常的な保育に自然体験活動を積極的に取り入れます。活動フィールドは、園周辺身の身近な自然から、大きな自然まで様々です。

小学生や親子対象の体験活動

子ども家庭支援センター、中央児童館が実施している事業で、森や海で、ダイナミックに自然の雄大さを体験します。

食 育

地域で採れるきのこや山菜、魚など自然のめぐみを活かした食育の推進に取り組んでいます。

ワークショップ

親子で森の保育を体験できるワークショップを開催しています。各施設において森の保育に携わっている会員等の勉強の場でもあり、横の連携が図られます。

フォーラム

先進的な取り組みをしている森の保育実践者の講演や当研究会の活動報告等を行い、保育者・保護者のもとより、広く市民を対象に学習の場、情報交換の場を提供します。

令和2年度 つるおか森の保育活動記録

おもしろい〜♪ **森**

令和3年10月発行

つるおか森の保育研究会

事務局：鶴岡市健康福祉部子育て推進課

山形県鶴岡市馬場町9番25号

TEL 0235-25-2111

FAX 0235-25-2167

E-Mail kosodate02@city.tsuruoka.yamagata.jp

